

# 酪農学園大学公認学生サークル野生動物生態研究会との連携による 野生動物医学研究の概要

浅 川 満 彦\*

An overview of research activities on wild animal medicine and biology performed  
with the Wild Animal Ecological Society, Rakuno Gakuen University, Japan

Mitsuhiko ASAKAWA\*  
(Accepted 7 July 2016)

## 背景と目的

1994 年 11 月、酪農学園大学獣医学科で野生動物学を正規課程に盛り込むことが機関決定され、その担当として、今回の著者、浅川が任ぜられた。そこで、当時、浅川は、既に同大で野生動物の生態調査に積極的に取り組んでいた公認学生サークル野生動物生態研究会（以下、野研）と、この科目を盛り立てるため、特に、野幌森林公園内における実地教育などの連携を打診した。これが受け入れられ、同時に顧問に就任した。以後、22 年が経過し、結果的に、野研と本学の野生動物医学との密接な関係性が構築された。

しかし、その関係性とは、具体的に、どのようなものであったのであろうか。大学とは研究を基盤に教育をする場である。そして、ある研究は公表論文により完結をする。そこで、この疑問に答えるため、既卒者を含む野研部員が著者として関わった論文を回顧的に手繰り、いつ、どのような分野で共同研究がなされたのかを解析し、今後の動向を探った。なお、この内容のうち、鳥類関連に関しては、石黒佑紀氏（現・酪農学園大学獣医学群獣医学類感染・病理学分野の 4 年生で、野研部員でもある）により、2016 年 9 月、北海道大学で開催された日本鳥学会年次大会ポスター発表の内容が包含されている。

## 材料と方法

浅川が著者として含まれた国内の学術誌・大学紀要などに掲載された著作は約 700 件があり、酪農学園大学の情報公開サイト CLOVER 教員業績目録上で公開されている。また、和文が中心となるが、そ

の一部は、同じく CLOVER にて PDF 版として公開もされている。それら公表論文群から、野研部員が著者として関わった論文・報文を選別し、その内容を分野別に分け概要の整理をした。なお、口頭あるいはポスターなど、いわゆる「学会発表」は、未公表として対象外とした。

## 結果と考察

選別の結果、既卒者を含め野研部員が関わった論文本文数は「引用文献」で示した 131 編で、筆頭あるいは共著で関わった人数は 29 であった（表 1）。これらのうち、英語論文は 37 編で、日本語論文が大半を占める。英語で記されていない論文は、科学的な価値が無いと見なされることがあるが、少なくとも啓発活動含む教育的な意義はあり、特に、本論文で扱うような教育的な効果を論考する場合は、こういったものも参照されよう。

さて、注目されることとして、鳥類を対象にしたものが 67 編とほぼ半数を占めていたことであった。特に、文部科学省の競争予算を受け附属動物病院（現動物医療センター）構内に野生動物医学センター（以下、WAMC）が設立された 2004 年を前後に比較すると、その設立後に出版されたものが 35 編であり、この施設が鳥類（医）学研究で連携強化を促進させたことが推し測られた。これらの中には、餌付け禁止の根拠や社会的不安を惹起した大量死解明など、社会的な貢献を果たしたものも含まれた。

寄生虫（病）学の論文が 91 編となり、多数を占めるが、これは著者の専門性を反映した結果であるので、不思議ではないが、このような研究を牽引してきた野研部員には、次のようなカテゴリーが含まれ

\* 酪農学園大学獣医学群獣医学類感染・病理学分野  
School of Veterinary Medicine, Rakuno Gakuen University  
連絡先 (Correspondence) : askam@rakuno.ac.jp

表 1 著者と酪農学園大学野生動物生態研究会部員との共同研究分野

---

魚類
寄生虫（病）[75, 76, 79]
両生類
寄生虫（病）[72, 82]
爬虫類
寄生虫（病）[28, 31, 32, 47, 70, 73, 81]
真菌（病）[66]
標本目録 [2, 74]
鳥類
寄生虫（病）
原虫 [27, 55]
蠕虫 [12, 30, 50, 53, 56-60, 65, 88, 95, 97, 99, 100, 102-105, 111, 112, 114, 117, 119, 120, 121, 126]
節足動物 [52, 84, 122, 125, 128]
複合 [87, 89, 106, 108, 109, 118, 131]
中間宿主 [3, 71]
寄生虫（病）以外の感染症（病原体）[11, 13, 16, 51, 123]
中毒 [49]
剖検記録 [1, 96, 98, 101, 107, 110, 113, 115, 116, 127, 129]
食性 [83]
標本目録 [8, 9, 17, 26, 93, 94]
哺乳類
寄生虫（病）
原虫 [21, 33, 34, 36, 37, 40]
蠕虫 [6, 22, 38, 39, 41, 42, 44, 46, 54, 90]
節足動物 [35, 45, 78, 80, 130]
複合 [4, 15, 25, 48, 61, 62]
寄生虫（病）以外の感染症（病原体）[7, 24, 29, 92]
繁殖生理・成長・遺伝子分析 [18, 19, 67]
剖検記録 [64]
遺跡調査・絨毛鑑定 [5, 14, 69]
標本目録 [43]
傷病救護記録・鳥獣寄生虫（病）[23, 85, 86, 124]
教育 [10, 20, 77]

---

る；1）獣医学科（獣医学類）の著者主宰のゼミに配属された学生・院生・研究生，2）同学科であるがそれ以外のゼミに所属した学生，3）獣医学科以外の学生。もちろん，1）が大半を占めるが，2）および3）も含まれる。たとえば，非ゼミ学生では，学芸員課程における学内実習でWAMCの材料を分析し，食性や標本カタログなどが刊行された。だが，このような機会も，2013年にこの課程が廃止されたため，失われてしまった。

今回の回顧的な作業により，部員が卒業した後の診断依頼や共同研究の直接的な影響のほか，卒業後の進路（所属研究室の選定，大学院進学，就職，学芸員などの資格取得など）に間接的に影響を与えたと解されるものも確認された。1）には獣医学研究科博士課程まで進学した二名も含まれ，WAMCでの研究展開で大きな原動力となった。著者は，現在，酪農学研究科修士課程も兼任しているので，獣医系以外の方も受け入れ可能である。ただし，WAMCで

動物（死体や糞などを含め）を取り扱う場合，本学規定で定められている感染症および動物実験の研修の事前受講が必要であるし，破傷風の予防接種は自身を守るため必須である。また，ゼミ活動としてWAMCを活用する場合は，指導教員と著者との事前相談が原則である。

通常，大学の研究教育活動は教員がトップダウン式に行われるが，卒後進路の多様性が高まりつつある今日，以上のようにWAMCのようなハードで，意欲ある学生と伴にボトムアップ式に行うことで，キャリア形成や研究内容の広がり，お互いにとって有効な状況を醸し出すことが確認された。

なお，以上で対象としたものは論文のみであったが，いわゆる「学会発表」でとまっているものも夥しい。論文化や公表には教員が関わらないと難しい部分があるので，その停滞は，著者の責任である。ここで掲載されていないが，ほかにも数多くの野研部員が関わっており，かつ現在も，WAMCで行わ

れる研究の進展で彼らの支援を受けていることを最後に記しておく。

## 謝 辞

本拙稿冒頭に記した酪農学園大学獣医学類学生兼野研部員の石黒佑紀氏には本分析にご協力頂いた。

## 引用文献

(既卒者含む酪農学園大学野生動物生態研究会部員に下線)

1. 浅川満彦, 堀上敦子, 和田みどり, 相澤空見子, 渡邊秀明, 吉野智生, 岡本 実, 大沼 学, 村田浩一, 桑名 貴. 2008. 北海道オホーツク海沿岸で大量死したハシボソミズナギドリ (*Puffinus tenuirostris*) の剖検—特に寄生虫学的な所見を中心として. 獣寄生虫誌, 7(1): 21.
2. 浅川満彦, 岩尾 一・谷山弘行. 2006. 酪農学園大学野生動物医学センターで登録された獣医爬虫類学標本 (第1報). 酪農大紀, 自然科学, 30: 221-228.
3. 浅川満彦, 金野俊史. 2000. 吸虫類 *Leucochloridium* 属寄生のオカモノアラガイについて. 北獣会誌, 44: 411.
4. 浅川満彦, 的場洋平, 木村朗子, 佐々木尚子. 2003. 野幌森林公園における寄生虫相の研究——コテングコウモリ. 野幌研究, 2: 28-30.
5. 浅川満彦, 的場洋平, 佐鹿万里子. 2004. 北海道森町倉知川右岸遺跡のタヌキ溜糞と推定された灰状堆積物から検出された小哺乳類の同定および寄生蠕虫類虫卵検査について. (財)北海道埋蔵文化財センター(編). 森町倉知川右岸遺跡, 北埋調報, 196: 329-332.
6. 浅川満彦, 的場洋平, 角野敬行, 葦田恵美子, 福江佑子, 中尾 稔, 岡本宗裕, 伊藤 亮. 2009. 外来種アメリカミンク (*Neovison vison*) から得られた寄生蠕虫類. 獣寄生虫誌, 8(1): 54.
7. 浅川満彦, 的場洋平, 山田大輔, 神山恒夫. 2000. 北海道野幌森林公園を中心に生息する移入種ライグマの寄生蠕虫類ほか病原生物とその伝播に関わる食性—その調査の進捗状況と今後の方向性. 酪農大紀, 自然科学, 25: 1-8.
8. 浅川満彦, 中村 茂. 2002. 酪農学園大学獣医学部で登録された獣医鳥類学標本 (第1報). 酪農大紀, 自然科学, 27: 43-60.
9. 浅川満彦, 中村 茂. 2003. 酪農学園大学獣医学部にある野生鳥類標本カタログ刊行される. ふるさとの自然, (69): 10-19.
10. 浅川満彦, 外平友佳理, 皆川智子, 野村 愛, 石塚真由美, 渡辺有希子, 加藤智子. 2009. 野生動物医学教育に関する実態調査報告. 野生動物医誌, 14: 85-95.
11. Asakawa, M., Nakamura, S. and Brazil, M.A. 2002. An overview of infectious and parasitic diseases in relation to the conservation biology of the Japanese avifauna. J. Yamashina Inst. Ornithol., 34: 200-221.
12. 浅川満彦, 中村 茂, 小西 敢. 2000. クッチャロ湖で死亡したコハクチョウの住血吸虫科吸虫. 北獣会誌, 44: 326.
13. Asakawa, M., Onuma, M., Yoshino, T., Aizawa, K., Sasaki, H., Maeda, A., Saito, M., Kato, N., Morita, T., Murata, K. and Kuwana, T. 2008. Risk Assessment of Japanese avian infectious diseases performed by the Wild Animal Medical Center (WAMC), Rakuno Gakuen University, Japan. J. Vet. Epidemiol., 12: 25-26.
14. 浅川満彦, 渡邊秀明, 的場洋平. 2007. 北海道厚真町上幌内モイ遺跡 擦文文化期の土坑底堆積物の寄生蠕虫類虫卵検査結果. 厚真町 上幌内モイ遺跡(2)厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書2, 厚真町教育委員会: 323-325.
15. 浅川満彦, 横山祐子, 里吉亜也子. 2004. サル類に関する最近実施された寄生虫学的調査の概要について. 獣寄生虫誌, 3(1): 63.
16. 浅川満彦, 吉野智生, 相澤空見子. 2007. 絶滅危惧鳥類を用いた病原体感染リスクの評価に関する研究. 地球環境研究総合推進費平成19年度研究成果——中間成果報告集, 環境省地球環境局, 東京: 145-153.
17. 浅川満彦, 吉野智生, 上村純平. 2006. 酪農学園大学野生動物医学センターで登録された獣医鳥類学標本(第2報). 酪農大紀, 自然科学, 31: 71-88.
18. Asano, M., Matoba, Y., Ikeda, T., Suzuki, M., Asakawa, M. and Ohtaishi, N. 2003. Reproductive characteristics of the feral raccoon (*Procyon lotor*) in Hokkaido, Japan. J. Vet. Med. Sci., 65: 369-373.
19. Asano, M., Matoba, Y., Ikeda, T., Suzuki, M., Asakawa, M. and Ohtaishi, N. 2003. Growth pattern and seasonal weight changes of the feral raccoon (*Procyon lotor*) in Hokkaido,

- Japan. Jpn. J. Vet. Res., 50: 165-173.
20. 東 美緒, 浅川満彦. 2016. 書籍紹介『新編 家畜生理学』ズー・アンド・ワイルドライフニュース(日本野生動物医学会ニュースレター) (42): 16-17.
  21. 藤澤幸平, 辻 正義, 川渕貴子, 竹村由希, 的場洋平, 浅川満彦, 中出哲也, 内田佳子, 石原智明. 2007. 北海道のアライグマから分離された *Babesia microti* 様原虫のイヌ赤血球への順化. 獣寄生虫誌, 5(2): 44.
  22. 福本真一郎, 望月里衣子, 新垣英美, 山田清太郎, 松立大史, 浅川満彦, 小谷忠生, 泉澤康晴, 山下和人, 都築圭子, 佐々木均. 2010. 北海道で初めて検出された猫の東洋眼虫症. 北獣会誌, 54: 150-153.
  23. 古瀬歩美, 牛山喜偉, 平山琢朗, 吉野智生, 浅川満彦. 2015. 酪農学園大学野生動物医学センター WAMC における傷病鳥獣救護の 2011 年度以降の記録. 北獣会誌, 59: 184-187.
  24. Hagiwara, K., Matoba, Y. and Asakawa M. 2009. Borna disease virus in raccoons (*Procyon lotor*) in Japan. J. Vet. Med. Sci., 71: 1009-1015.
  25. 橋本千尋, 山本達也, 斉藤恵理子, 吉野智生, 外平友佳理, 川上茂久, 浅川満彦. 2015. サファリパークで飼育されたネコ科動物の糞便を用いた寄生虫保有状況調査. 野生動物医誌, 20: 47-49.
  26. 平山琢朗, 牛山喜偉, 古瀬歩美, 高木佑基, 長雄一, 浅川満彦. 2014. 酪農学園大学野生動物医学センターで登録された獣医鳥類学標本 (第 5 報). 酪農大紀, 自然科学, 38: 83-100.
  27. 久田裕子, 齋藤慶輔, 浅川満彦. 2004. 北海道産シマフクロウ (*Ketupa blakistoni blakistoni*) における住血原虫ヘモプロテウス属の感染状況. 野生動物医誌, 9: 85-90.
  28. 石田 綾, 岩尾 一, 樋上正美, 阿部慎太郎, 小林頼太, 浅川満彦. 2011. 日本で定着した外来種アカミミガメ *Trachemys scripta* およびカミツキガメ *Chelydra serpentina* から得られた内部寄生虫について. 日本生物地理学会報, 66: 1-6.
  29. Ishihara, R., Hatama, S., Uchida, I., Matoba, Y., Asakawa, M. and Kanno, T. 2009. Serological evidence of coronavirus infection in feral raccoons in Hokkaido, Japan. Jpn. J. Zoo Wildl. Med., 14: 107-109.
  30. Ito, H., Yoshino, T., Nakamura, S., Endo, D., Fijimaki, Y., Nakada, T. and Asakawa, M. 2012. Isolation of three nematode species from the Hazel Grouse, *Bonasa bonasia vicinitas* Riley, 1915, in Hokkaido, Japan. Jpn. J. Zoo Wildl. Med., 17: 21-25.
  31. 岩尾 一, 篠田理恵, 吉田宗則, 萩原克郎, 浅川満彦. 2012. 札幌市内等のペットショップで販売されていたトカゲ類の寄生虫保有状況. 北獣会誌, 56: 5-7.
  32. 城戸美紅, 板倉来衣人, 浅川満彦. 2016. バンサーカメレオン皮下から見出されたフィラリア類 (*Foleyella furcata*). NJK, Mar. 2016: 26-27.
  33. Jinnai, M., Kurata, T., Tsuji, M., Nakajima, R., Fujisawa, K., Nagata, S., Koide, H., Matoba, Y., Asakawa, M., Takahashi, K. and Ishihara, C. 2009. Molecular evidence for the presence of new *Babesia* species in feral raccoons (*Procyon lotor*) in Hokkaido, Japan. Vet. Parasitol., 162: 241-247.
  34. 陳内理生, 辻 正義, 長田翔伍, 川渕貴子, 的場洋平, 浅川満彦, 石原智明. 2007. 北海道のアライグマにおける新たな *Babesia* 原虫の検出と進化系統解析. 獣寄生虫誌, 5(2): 42.
  35. 釜谷大輔, 吉野智生, 浅川満彦. 2012. シシオザルの肺から得られたサルハイダニ *Pneumonyssus simicola* Banks, 1901 (ダニ目: ハイダニ科). 獣畜新報, 65: 39-42.
  36. 川渕貴子, 陳内理生, 辻 正義, 長田翔伍, 的場洋平, 浅川満彦, 石原智明. 2007. 北海道の野生アライグマからの *Babesia microti* 様原虫の分離. 獣寄生虫誌, 5(2): 43.
  37. Kawabuchi, T., Tsuji, M., Sado, A., Matoba, Y., Asakawa, M., and Ishihara, C. 2005. *Babesia microti*-like parasites detected in feral raccoons (*Procyon lotor*) captured in Hokkaido, Japan. J. Vet. Med. Sci., 67: 825-827.
  38. Kobayashi, T., Kanai, Y., Oku, Y., Matoba, Y., Katakura, K. and Asakawa, M. 2011. Morphological and genetic characterization of sylvatic isolates of *Trichinella* T9 obtained from feral raccoons (*Procyon lotor*). Nematol. Res., 41: 27-29.
  39. Kobayashi, T., Kanai, Y., Ono, Y., Matoba, Y., Suzuki, K., Okamoto, M., Taniyama, H., Yagi, K., Oku, Y., Katakura, K. and Asak-

- awa, M. 2007. Epidemiology, histopathology, and muscle distribution of *Trichinella* T9 in feral raccoons (*Procyon lotor*) and wildlife of Japan. *Parasitol. Res.* 100: 1287-1291.
40. 的場洋平, 浅野 玄, 増渕寿子, 浅川満彦. 2002. 外来種アライグマ (*Procyon lotor*) からのコクシジウム類 *Eimeria* 属および *Isospora* 属の初確認とトキソプラズマ抗体の保有状況. *野生動物医誌*, 7: 87-90.
41. Matoba, Y., Asano, M., Yagi, K. and Asakawa, M. 2003. Detection of taenid species (*Taenia taeniaeformis*) from a feral raccoon (*Procyon lotor*) and its epidemiological meanings. *Mammal. Study*, 28: 157-160.
42. 的場洋平, 坂田金正, 浅川満彦. 2002. 新潟県佐渡島産タヌキの内部寄生蠕虫相. *日本生物地理学会報*. 57: 31-36.
43. 的場洋平, 谷山弘行, 浅川満彦. 2006. 酪農学園大学野生動物医学センターで登録された獣医哺乳類学標本 (第1報): 1995年から2005年までに搬入された野生アライグマ (*Procyon lotor*). *酪農大紀*, 自然科学, 31: 55-70.
44. Matoba, Y., D. Yamada, M. Asano, Y. Oku, K. Kitaura, K. Yagi, F. Tenora, M. Asakawa. 2006. Parasitic helminths from feral raccoons (*Procyon lotor*) on Hokkaido and Kyushu Islands, Japan. *Helminthologia*, 43: 139-146.
45. 的場洋平, 横山祐子, 里吉亜也子, 浅川満彦. 2002. 野幌森林公園産野生タヌキにおける疥癬の初症例報告. *野幌研究*, (1): 17-20.
46. 松立大史, 三好康子, 田村典子, 村田浩一, 丸山総一, 木村順平, 野上貞雄, 前田喜四雄, 福本幸夫, 赤迫良一, 浅川満彦. 2003. 我が国に定着した外来齧歯類 (タイワンリス *Callosciurus erythraeus* およびヌートリア *Myocastor coypus*) の寄生蠕虫類に関する調査. *野生動物医誌*, 8: 63-67.
47. 水尾 愛, 岩尾 一, 浅川満彦. 2012. 国内のペットショップで市販されていたヘビ類の寄生虫保有状況の予備調査. *獣畜新報*, 65: 287-292.
48. 森 昇子, 三觜 慶, 鈴木瑞穂, 萩原克郎, 浅川満彦. 2014. 北海道日高地方におけるエゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) の内部寄生虫相及び道内エゾシカ寄生肝蛭 (*Fasciola* sp.) の分布域についての調査報告. *北獣会誌*, 58: 44-47.
49. Nakade, T., Tomura, Y., Jin, K., Taniyama, H., Yamamoto, M., Kikkawa, K., Miyagi, K., Uchida, E., Asakawa, M., Mukai, T., Shirasawa, M. and Yamaguchi, M. 2005. Lead poisoning in whooper and whistling (tundra) swans. *J. Wildl. Dis.*, 41: 256-259.
50. Nakamura, S. and Asakawa, M. 2001. New record of parasitic nematodes from five species of the order Anseriformes in Hokkaido, Japan. *Jpn. J. Zoo Wildl. Med.* 6: 27-33.
51. 中村 茂, 遠藤大二, 佐藤 準, 浅川満彦. 2004. 新潟県愛鳥センターで飼育されていたガン類のマレック病ウイルス感染に関する予備調査. *酪農大紀*, 自然科学, 28: 163-165.
52. Nakamura, S., Morita, T. and Asakawa, M. 2003. New host records of arthropod parasites from sea birds in Hokkaido, Japan. *Jpn. J. Zoo Wildl. Med.* 8: 131-133.
53. 中村 茂, 吉野智生, 佐藤 準, 千葉 晃, 浅川満彦. 2004. 新潟産野生鳥類の寄生蠕虫類の記録. *日本鳥学会誌*, 52: 116-118.
54. 小野陽子, 上山剛司, 佐鹿万里子, 村上隆広, 塚田英晴, 増田 泰, 岡田秀明, 長谷川英男, 浅川満彦. 2013. 知床半島産野生小哺乳類の寄生線虫. *知床博研報*, (35): 11-14.
55. 大沼 学, 大島由子, 久田裕子, 岡本 実, 上林亜紀子, 志村良治, 齋藤慶輔, 村田浩一, 桑名 貴, 浅川満彦. 2007. 北海道産希少鳥類を対象にした寄生原虫類に関する疫学および病理学的検討. *獣寄生虫誌*, 6(1): 27.
56. Onuma, M., Yoshino, T., Mizuo, A., Kogawa, M. and Asakawa, M. 2011. First host record of *Porrocaecum semiteres* (Zeder, 1800) Baylis, 1920 (Nematoda: Ascaridoidea) obtained from a Superb Starling, *Lamprotorus superbus* Ruppell, 1845 with an overview of the genus *Porrocaecum* recorded from Japanese birds. *Biogeography*, 13: 59-63.
57. 大沼 学, 吉野智生, 高木昌興, 松井 晋, 日阪万里子, 長嶺 隆, 川嶋貴治, 村田浩一, 桑名 貴, 浅川満彦. 2006. モズ *Lanius bucephalus* における *Hamatospiculum* 属線虫 (Diplostriaenoidea 上科) の濃厚寄生症例報告とその保全医学上の視点. *獣寄生虫誌*, 5(1): 50.
58. 大沼 学, 吉野智生, 渡邊秀明, 大島由子, 岡本 実, 志村良治, 渡辺有希子, 齋藤慶輔, 桑名 貴, 村田浩一, 谷山弘行, 浅川満彦. 2008. 飼育施設あるいは野外において斃死した希少野生鳥類の寄生蠕虫類: その保有状況の最近事例

- のまとめ, 獣寄生虫誌, 6(2): 86.
59. Ohshima, Y., Yoshino, T., Mizuo, A., Shimura, R., Iima, H., Uebayashi, A., Osa, Y., Onuma, M., Murata, K. and Asakawa, M. 2014. A helminthological survey on Tancho *Grus japonensis* in Hokkaido, Japan. Jpn. J. Zoo Wildl. Med., 19: 31-35.
  60. Onuma, M., Yoshino, T., Zhao, C., Nagamine, T., Asakawa, M. 2011. Parasitic helminths obtained from Okinawa rails, *Gallirallus okinawae*. J. Yamashina Inst. Ornithol., 43: 74-81.
  61. 佐渡晃浩, 吉野智生, 生駒 忍, 藤本 智, 浅川満彦. 投稿中. 動物園内に生息する野生哺乳類の寄生虫保有状況. 野生動物医誌, 投稿中.
  62. 佐渡晃浩, 吉野智生, 志村良治, 浅川満彦. 2016. 動物園飼育哺乳類から得られた寄生虫標本に基づくその保有状況に関する回顧的調査. 北獣会誌, 60: 6-9.
  63. 佐鹿万里子, 的場洋平, 服部 薫, 青柳正英, 浅野 玄, 池田 透, 浅川満彦. 2004. 白化現象の認められた野生アライグマの捕獲. 森林保護, (235): 6-7.
  64. 佐鹿万里子, 森田達志, 的場洋平, 岡本 実, 谷山弘行, 猪熊 壽, 浅川満彦. 2009. 野生アライグマ *Procyon lotor* にみられた疥癬の一例. 野生動物医誌, 14: 125-128.
  65. Sato, A., Nakamura, S., Takeda, M., Murata, K., Mitsuhashi, Y., Kawai, N., Tanaka, N. and Asakawa, M. 2005. Parasitic helminths from exhibited avian species kept in Kinki District in Japan. Jpn. J. Zoo Wildl. Med., 10: 35-38.
  66. 篠田理恵, 飯間裕子, 増田 修, 豊崎浩司, 高鳥浩介, 岡本 実, 谷山弘行, 浅川満彦. 2012. 飼育アカウミガメ *Caretta caretta* で経験された真菌感染症例. 野生動物医誌, 17: 127-130.
  67. 高田雄三, 的場洋平, 浅川満彦. 2007. アライグマ MHC の地理的分布. MHC 雑誌, 14: 79-91.
  68. 高木佑基, 浅川満彦. 2016. 獣毛鑑定の一例. 森林保護, (341): 6-7.
  69. 高木佑基, 浅川満彦. 2016. 北日本の動物園で飼育された爬虫類から得られた *Railietiella* 属舌虫類. 衛生動物, 67: 35-36.
  70. 高木佑基, 浅川満彦. 2015. 舌形動物および舌虫症に関する最近の知見 — 特に酪農学園大学野生動物医学センター WAMC で扱われた事例を中心に. 酪農大紀, 自然科学, 40: 11-16.
  71. 高木佑基, 平山琢朗, 牛山喜偉, 吉沼利晃, 浅川満彦. 2014. *Leucochloridium* 属吸虫スποロシスト寄生オカモノアラガイの教材化事例. (高宮信三郎 編) 寄生虫学研究: 材料と方法 2014 年版, 三恵社, 名古屋, 163-165.
  72. 高木佑基, 更科美帆, 吉田剛司, 浅川満彦. 2013. 北海道に定着したウシガエル *Lithobates catesbeianus* の寄生蠕虫類に関する予備的報告. 日本生物地理学会報, 68: 113-115.
  73. 高木佑基, 高江洲昇, 本田直也, 浅川満彦. 2015. 動物園展示爬虫類における蠕虫類保有状況の調査. J-VET (2015 年 7 月号): 77-84.
  74. 高木佑基, 田中祥菜, 浅川満彦. 2014. 酪農学園大学野生動物医学センターで登録された獣医爬虫類学標本 (第 2 報). 酪農大紀, 自然科学, 39: 9-36.
  75. 竹内徳余, 浅川満彦, 遠藤大二. 2014. 単純ベイズ推定を応用した寄生線虫の同定手法. (高宮信三郎編) 寄生虫学研究: 材料と方法 2014 年版, 三恵社, 名古屋, 51-65.
  76. 竹内徳余, 伊東隆臣, 浅川満彦. 2013. 大阪・海遊館で飼育展示された海産魚の内部・外部寄生虫. 獣寄生虫誌, 12: 67-72.
  77. 田中祥菜, 浅川満彦. 2014. 英国 MSc WAH および WAB 修了者向けニュースレターに見る野生動物医学進路動向 (博士課程, ポスドク, 生涯教育など). ズー・アンド・ワイルドライフニュース (日本野生動物医学会ニュースレター), (38): 14-18.
  78. 田中祥菜, 伊藤このみ, 伊東隆臣, 浅川満彦. 2015. 飼育ラッコの肺に濃厚寄生が認められたアザラシハイダニ *Halarachne halichoeri* (ハイダニ科 Halarachnidae). 獣畜新報, 68: 47-50.
  79. 田中祥菜, 城戸美紅, 伊東隆臣, 浅川満彦. 2015. 水族館展示用ジンベイザメ *Rhincodon typus* の斃死体上から得られたウオジラミ類. 獣畜新報, 68: 767-770.
  80. 田中祥菜, 三輪恭嗣, 浅川満彦. 2016. 都内の愛玩用ヨツユビハリネズミ *Aterix albiventris* より検出された *Caparinia* 属ダニ類 (キュウセンダニ科 Psoroptidae). 獣畜新報, 69: 443-445.
  81. 田中祥菜, 菅原 陽, 浅川満彦. 2015. 北海道産 *Elaphe* 属ヘビ類で初めて見出されたダニ類 *Ophidilaelaps* sp. (Laelaptidae 科) の記録. 酪

- 農大紀, 自然科学, 39: 131-133.
82. 田中祥菜, 田口勇輝, 野田亜矢子, 野々上範之, 浅川満彦. 2016. 動物園飼育下オオサンショウウオ (*Andrias japonicus*) における寄生虫学的調査. 野生動物医誌, 21: 印刷中.
83. 時田喜子, 吉野智生, 大沼 学, 金城輝雄, 浅川満彦. 2014. 八重山諸島におけるカンムリワシの胃内容物. Bird Res., 10: S13-S18.
84. 上村純平, 金原玲子, 吉野智生, 盛田 徹, 片岡愛子, 谷山弘行, 福井大祐, 遠藤大二, 浅川満彦. 2010. 北海道石狩低地帯で確認されたシメ (*Coccothraustes coccothraustes*) におけるヒナイダニ類寄生症例. 鳥臨研会報, (13): 48-50.
85. 上村純平, 吉野智生, 相澤空見子, 中出哲也, 都築圭子, 谷山弘行, 浅川満彦. 2005. 2004 年度に酪農学園大学野生動物医学センターで取り扱った傷病鳥獣について. ズー・アンド・ワイルドライフニュース (日本野生動物医学会ニュースレター), (20): 10-11.
86. 牛込直人, 吉野智生, 鈴木 友, 河尻睦彦, 梶一成, 遠藤大二, 浅川満彦. 2011. 川崎市夢見ヶ崎動物公園における寄生原虫類および蠕虫類の調査. 野生動物医誌, 16: 133-137.
87. Ushiyama, K., Hirayama, T., A. Furuse, A., Yoshino, T., Osa, Y. and Asakawa, M. 2014. Infectious and parasitic diseases or their responsible agents recorded from Japanese avian species (a review). Ornithol. Sci., 13 (Suppl.): 251.
88. 牛山喜偉, 平山琢朗, 角田真穂, 渡邊有希子, 齊藤慶輔, 吉野智生, 浅川満彦. 2016. リハビリテーションおよび終生飼育下ウミワシ類の寄生蠕虫に関しての予備的検査. エキゾチック診療, (27): 103-107.
89. Ushiyama, K., Yoshino, T., Hirayama, T., Osa, Y. and Asakawa, M. 2013. An overview of recent parasitic diseases due to helminths and arthropods recorded from wild birds, with special reference to conservation medical cases from the Wild Animal Medical Center of Rakuno Gakuen University in Japan. In: (Ruiz, L. and Iglesias, F. Eds.) Birds: Evolution and Behavior, Breeding Strategies, Migration and Spread of Disease, Nova Science, USA: 127-142.
90. 横山祐子, 稲葉智之, 浅川満彦. 2003. 我が国に輸入された愛玩用サル類の寄生蠕虫類保有状況 (予報) 野生動物医誌, 8: 83-93.
91. Yokoyama, Y., Inaba, T. and Asakawa, M. 2005. Preliminary report on prevalence of the parasitic helminths obtained from pet primates transported into Japan. Natural Hist. J. Chulalongkorn Univ., Suppl. 1: 119.
92. 吉識綾子, 的場洋平, 浅川満彦, 高橋樹史, 中野良宣, 菊池直哉. 2012. 北海道のアライグマからのレプトスピラの分離と抗体調査. 獣疫誌, 15(2): 100-105.
93. 吉野智生, 相澤空見子, 長 雄一, 遠藤大二, 浅川満彦. 2010. 酪農学園大学野生動物医学センター WAMC で登録された獣医鳥類学標本 (第 4 報) 酪農大紀, 自然科学, 35: 1-13.
94. 吉野智生, 相澤空見子, 渡邊秀明, 大沼 学, 桑名 貴, 村田浩一, 浅川満彦. 2008. 酪農学園大学野生動物医学センターで登録された獣医鳥類学標本 (第 3 報). 酪農大紀, 自然科学, 33: 1-12.
95. 吉野智生, 浅川満彦. 2012. 寄生線虫エウストロンギリデスに関する最近の話題. 森林保護, (325): 5-7.
96. 吉野智生, 浅川満彦. 2012. マレック病罹患マガン発見を機に継続実施された剖検概要. (牛山克巳 編) 『みんなでマガンを数える会 25 周年記念誌』, 宮島沼水鳥・湿地センター, 北海道美唄市: 25-27.
97. Yoshino, T. and Asakawa, M. 2013. A brief overview of parasitic nematodes recorded from waterfowls on Hokkaido, Japan. In: (Hambrick, J. and Gammon, L. T. Eds.) Ducks: Habitat, Behavior and Diseases, Nova Science Publishers, Inc., USA: 59-64.
98. 吉野智生, 浅川満彦. 2016. 観光地における水鳥の窒息事故 — 食パンがオオハクチョウの咽喉部を塞栓, (畠山武道 監, 小島 望・高橋満彦 編著) 野生動物の餌付け問題, 地人書館, 東京: 179-187.
99. Yoshino, T., Endoh, D., Onuma, M., Osa, Y. and M. Asakawa. 2010. Spatial epidemiological analysis of parasitic nematodes of waterfowl on Hokkaido Island, Japan: An Overview. Kokako, Bull. N.Z.V.A. Wildl. Soc., 17 (2): 30.
100. 吉野智生, 遠藤大二, 大沼 学, 長 雄一, 斎藤美加, 桑名 貴, 浅川満彦. 2012. 北海道におけるアイガモの寄生蠕虫類検査. 獣疫誌, 15:

- 106-109.
101. 吉野智生, 藤本 智, 小林伸行, 前田秋彦, 前田潤子, 大沼 学, 桑名 貴, 村田浩一, 浅川満彦. 2009. 帯広市内で発見されたハシブトガラス *Corvus macrohynchus* 白化個体死体のウイルス学的検査および剖検記録. 北獣会誌, 53: 165-167.
  102. Yoshino, T., Hama, N., Onuma, M., Takagi, M., Sato, K., Matsui, S., Hisaka, M., Yanai, T., Ito, H., Urano, N., Osa, Y. and Asakawa, M. 2014. Isolation of filarial nematodes belonging to the superorders Diplostriaenoidea and Aprocotoidea from wild and captive birds in Japan. Res. One Health, Mar/2014: 139-148.
  103. Yoshino, T., Hayakawa, D., Yoshizawa, M., Osa, Y. and Asakawa, M. 2012. First record of *Strongyloides avium* Cram, 1929 (Nematoda: Rhabditoidea) obtained from a Fairy Pitta, *Pitta brachyura nympha* Temminck & Schlegel, 1850, kept in zoological garden. Bull. Tokushima Pref. Mus., (22): 1-6.
  104. 吉野智生, 東野晃典, 遠藤大二, 浅川満彦. 2011. アフリカハゲコウから検出された *Balfouria monogama* Leiper, 1908 (Trematoda: Echinostomatidae) の形態と病理. 獣畜新報, 64: 133-136.
  105. 吉野智生, 星野 (大塚) 浩子, 向井 猛, 遠藤大二, 長 雄一, 藤井 啓, 浅川満彦. 2011. 動物園飼育ソウシチョウ *Leiothrix lutea* から得られた *Hartertia* sp. (Nematoda: Spiruridea) の初記録. 北獣会誌, 56: 593-596.
  106. Yoshino, T., Iima, H., Matsumoto, F., Shimura, R. and Asakawa, M. 2014. Helminths and arthropod parasites of Red-crowned Crane (*Grus japonensis*) in Hokkaido, Japan. Ornithol. Sci., 13 (Suppl.): 259.
  107. 吉野智生, 飯間裕子, 齊藤慶輔, 渡邊有希子, 松本文雄, 浅川満彦. 2015. 鶴居村温根内で回収されたタンチョウ幼鳥の剖検記録と胃内容物. 獣畜新報, 68: 591-596.
  108. Yoshino, T., Kawakami, K., Hayama, H., Ichikawa, N., Azumano, A., Nakamura, S., Endoh, D. and Asakawa, M. 2011. A parasitological survey of introduced birds in Japan. J. Yamashina Inst. Ornithol., 43: 65-73.
  109. 吉野智生, 川上和人, 佐々木均, 宮本健司, 浅川満彦. 2003. 日本における外来鳥類ガビチョウ *Garrulax canorus* およびソウシチョウ *Leiothrix lutea* (スズメ目: チメドリ科) の寄生虫学的調査. 鳥学誌, 51(2): 39-42.
  110. 吉野智生, 川路則友, 浅川満彦. 2014. 札幌市羊が丘にて採集されたナキイスカ *Loxia leucoptera* の剖検記録. 北獣会誌, 58: 548-550.
  111. 吉野智生, 木村雅之, 浅川満彦. 2012. ヤマゲラ *Picus canus* の糸虫類について. 森林保護, (326): 14-16.
  112. 吉野智生, 小高信彦, 齋藤恭子, 相澤空見子, 植野道章, 浅川満彦. 2014. 沖縄県内で採集された鳥類から得られた寄生蠕虫類の記録. 沖生誌, (52): 1-9.
  113. 吉野智生, 国藤泰輔, 渡辺竜己, 久木田優美, 前田秋彦, 萩原克郎, 村田浩一, 大沼 学, 桑名 貴, 浅川満彦. 2007. 輸入牧草に混入北海道内でその死体が発見されたホシムクドリ *Sturnus vulgaris* の記録. 北獣会誌, 51: 68-70.
  114. 吉野智生, 黒沢信道, 浅川満彦. 2015. アカエリカイツブリ *Podiceps grisegena* から得られた円葉類条虫. 酪農大紀, 自然科学, 40: 7-9.
  115. 吉野智生, 持田 誠, 浅川満彦. 2012. 窓へ衝突死したシロハラの一例. 北海道野鳥だより (167): 4-5.
  116. 吉野智生, 中田達哉, 浅川満彦. 2012. 事故死した夏鳥アリスイ *Jynx torquilla* の剖検記録とその体表から得られたノミ *Ceratophyllus tribulus* (隠翅目: Ceratophyllidae 科) について. 北獣会誌, 56: 45-47.
  117. Yoshino, T., Nakamura S., Endoh, D., Onuma, M., Osa, Y., Teraoka, H., Kuwana, T. and Asakawa, M. 2009. A helminthological survey of four families of waterfowl (Ardeidae, Rallidae, Scolopacidae and Phalaropodidae) in Hokkaido, Japan. J. Yamashina Inst. Ornithol., 41: 42-54.
  118. 吉野智生, 大沼 学, 長嶺 隆, 浅川満彦. 2013. ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii* から得られた線虫 *Synhimantus (Dispharynx) nasuta* およびウモウダニ類 *Neopteronyssus* sp. の初記録. 森林野生動物研誌, (38): 7-12.
  119. Yoshino, T., Onuma, M., Nagamine, T., Inaba, M., Kawashima, T., Murata, K., Kawakami, K., Kuwana, T. and Asakawa, M. 2008. First record of the genus *Heterakis* (Nematoda: Heterakidae) obtained from two



- scarce avian species, Japanese rock ptarmigan (*Lagopus mutus japonicus*) and Okinawa rails (*Gallirallus okinawae*), in Japan. Jpn. J. Nematol., 38: 89-92.
120. 吉野智生, 長 雄一, 遠藤大二, 金子正美, 高田雅之, 田村 豊, 大沼 学, 桑名 貴・浅川満彦. 2008. 野生鳥類の寄生蠕虫類を対象にした地理情報システム (GIS) を用いた空間疫学的解析の一例. 日本生物地理学会報, 63: 217-222.
121. 吉野智生, 長 雄一, 高田雅之, 金子正美, 遠藤大二, 浅川満彦. 2008. 北海道内における野生カモ目鳥類寄生の線虫類とその空間疫学的な予備解析. 獣寄生虫誌, 6(2): 129.
122. Yoshino, T., Shingaki, T., Onuma, M., Kinjo, T., Yanai, T., Fukushima, H., Kuwana, T. and Asakawa M. 2009. Parasitic helminths and arthropods of the Crested Serpent Eagle, *Spilornis cheela perplexus* Swann, 1922 from the Yaeyama Archipelago, Okinawa, Japan. J. Yamashina Inst. Ornithol., 41: 55-61.
123. 吉野智生, 上村純平, 相澤空見子, 盛田 徹, 吉田順子, 前田秋彦, 浅川満彦. 2009. 北海道胆振地方にて採集されたカササギ *Pica pica* の剖検記録3例とウイルス学的検査. 北獣会誌, 53: 542-544.
124. 吉野智生, 上村純平, 渡邊秀明, 相澤空見子, 遠藤大二, 長 雄一, 浅川満彦. 2014. 酪農学園大学野生動物医学センター WAMC における傷病鳥獣救護の記録(2003 年度-2010 年度). 北獣会誌, 58: 123-129.
125. Yoshino, T., Uemura, J. and Asakawa, M. 2012. Two parasite species of arthropods found in a nest and the nestling of Pied Wagtail, *Motacilla alba* Linnaeus, 1758, in Hokkaido, Japan. J. Rakuno Gakuen Univ., Nat. Sci., 36: 313-315.
126. Yoshino, T., Uemura, J., Endoh, D., Kaneko, M., Osa, Y. and Asakawa, M. 2009. Parasitic nematodes of Anseriformes birds in Hokkaido, Japan. Helminthologia, 46: 117-122.
127. Yoshino, T., Uemura, J., Uematsu, K., Tsuchida, S., Osa, Y., Taniyama, H., Endoh, D. and Asakawa, M. 2015. Postmortem and helminthological examination of seabirds killed by oil spill at Ishikari, Hokkaido, Japan, in November 2004. Res. One Health, 2: 1-16.
128. Yoshino, T., Ushiyama, K. and Asakawa, M. 2016. Ticks and mites from a survey of wild birds performed by the Wild Animal Medical Center of Rakuno Gakuen University in Japan. J. Acarol. Soc. Jpn., 25 (S 1): 189-192.
129. 吉野智生, 山田(加藤)智子, 石田守雄, 長雄一, 遠藤大二, 浅川満彦. 2010. 食パンが咽喉部を栓塞させたオオハクチョウ (*Cygnus cygnus*) 3 例の剖検所見. 北獣会誌, 54: 238-241. [註: 本報告は『日本の白鳥, (34): 55-60』で再掲]
130. 吉野智生, 山本達也, 斉藤恵理子, 川上茂久, 橋本幸江, 遠藤大二, 浅川満彦. 2011. 輸入シロサイ *Ceratotherium simum* (Burchell, 1817) から検出された *Gyrostigma rhinocerotis* Hope, 1840 (Diptera: Oestridae) と糞便検査. 獣畜新報, 64: 575-577.
131. Yoshino, T., Yanai, T., Asano, M. and Asakawa, M. 2012. First record of *Porrocaecum depressum* (Nematoda: Ascaridoidea), *Craspedorrhynchus* sp. and *Degeeriella* sp. (Insecta: Psocodea) obtained from a Hodgson's Hawk Eagle, *Spizaetus nipalensis*, in Gifu Prefecture, Japan. Biogeography, 14: 143-148.

## 要 旨

著者と公認学生サークル野生動物生態研究会との共同研究の概要を紹介し, 野生動物医学分野での意義を論じた。

## Summary

An overview of research activities on wild animal medicine and biology performed with the Wild Animal Ecological Society, Rakuno Gakuen University, Japan, was given, and a brief comment about an educational view of the scientific field was presented.

Keywords: Education, Rakuno Gakuen University, Wild Animal Ecological Society